
Ermida de São Brás

について

エヴォラの壁の外側にあるサン・ブラシュ礼拝堂は、1480年にD.ジョアン2世によって建設の命が下され、ペスト患者を収容した小さな療養所のある場所に建てられました。こうして、エヴォラの人々、王家、そしてこの建設の執行人であったエヴォラの司教D.ガルシア・デ・メネゼスは、この疫病の被害にあった人々を守るサン・ブラシュへの献身を示したのです。

建設者は分かっていませんが、エヴォラ市で最も重要な史跡の1つです。アレンテージョ地方全体にかなり広まったマヌエル・ムデハレス様式建築の初期作品です。

この様式は円錐形の尖塔を持つ円筒形のバットレス（控え壁）の使用が特徴です。この教会は、ロイオス教会とサン・フランシスコ教会と共にエヴォラの後期ゴシック様式の始まりを示す建造物です。見ておきたい建築的特徴は、建物に沿って設置された動物の形をした花崗岩のガーゴイルです。

教会内の見どころは、ムデハル様式の影響を受けた16世紀のタイルパネル（緑と白の幾何学的模様が描かれています）と、サン・ローマンとノッサ・セニョーラ・ダス・カンデイアスに捧げられた金箔彫刻の19世紀の祭壇です。主祭壇には守護聖人の肖像画があります。

16世紀、教会は枢機卿でインファンテのD.エンリケによって豊かになりました。

問い合わせ先

Évora

バリアフリー案内

入口へのバリアフリー経路

- 全部

バリアフリー入口

- 全部

建物内のバリアフリー通路

- 全部